

PTA 総会 校長挨拶

皆さんこんにちは。本日は大変お忙しい中、PTA 総会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

この4月に、本校の校長として着任いたしました、福田文子(ふくだあやこ)です。どうぞよろしくお願いいたします。新年度が始まって早くも1か月以上が経ち、季節は心地よい新緑の頃を迎えました。本年度、4月11日の入学式で新入生計55名を迎え、児童生徒168名となりました。また、高等部一般学級が県立岱志高校に併設する形で新たにスタートを切っています。5月8日からは、新型コロナウイルス感染症の法律上の扱いが「5類」に移行し、教育活動もコロナ禍前に少しずつ戻りつつあります。昨年までは書面開催であった本PTA総会も、このように実際にお会いしての総会が実施できることを大変うれしく思います。

さて、ここに集う私たちの共通の願いは、「子どもたちの幸せ」であろうと思います。「すべての子どもが将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指す。」4月に施行された「こども基本法」はそう謳っています。今を生き、次の時代を担う子どもの表情が曇っていては、日本の未来は明るいものにはなりません。

ところが、ユニセフ(国連児童基金)の研究所が2020年にまとめた報告書によると、日本の子どもの「精神的幸福度」は、先進38か国中最下位から2番目の37位だったそうです。過去3年以上続いた「コロナ禍」によるストレスもその一因に挙げられています。いじめの認知件数や児童虐待も、それぞれ過去最多となりました。

子どもは個人として尊重されるべき一人の人間であると同時に、大人によって愛され、保護され、生活を保障されなければなりません。そして子どもの幸福度の指標・目安は、子どもの自尊感情や自己肯定感が高いかということではないかと思います。これは、子どもが自分のことを、かけがえのない一人の人間であると大切に考え、頑張ろうとする、そうした心や気持ちのことでとても大事なことです。

そして、この子どもの自尊感情や自己肯定感を高めるためには、子どものしたことをほめること、努力を評価すること。「こういう点がよかったね。」など、ちゃんと褒められる理由、何がよかったのかを具体的に話してあげることが必要です。本年度も、私たちは一人一人の子どもたちの頑張りを見守り、励まし、子どもたちに熱くかかわろうとする姿勢で教育活動に取り組みたいと思っています。

本校の目指す児童生徒像は「たくましく・ほがらかに・のびやかに活動できる児童生徒」です。一人一人の子どもたちの良い点や頑張る点を見つめ、先生たちの見たもの、感じたものを子どもたちに返してあげる、そんな教育実践が、今年も教室の普段の風景の中で、あるいは運動会などの学校行事の場面でたくさん見られることだと思います。子どもを中心に据え、我々職員が保護者の皆様と手を携えて、子どもの今日・明日・未来の幸せのために、同じ方向を向いて子どもたちの教育に取り組めるよう、本校の教育活動へのご理解と協力をお願いし、挨拶に代えさせていただきます。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。